

第二次霧島市総合計画(前期基本計画)総括シート

政策体系	政策No.	4	政策名	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)	施策幹事課					
	施策No.	1	施策名	立志と将来への希望を育む学校教育の充実	教育総務課					
計画期間(2018年度~2022年度)における施策の方針 (総合計画書から引用)					関係課					
<p>子どもたちの学力や健康、豊かな心を育み、本市の発展を支えていく人材を育成するため、教職員の資質向上や安全・安心な教育環境の整備に努めるとともに、地域や関係機関と連携した学校支援体制を構築し、特色ある教育活動を推進します。</p> <p>また、市立国分中央高等学校においては、魅力ある専門高校として、歴史・伝統を継承しつつ、時代と社会の変化に対応できる人材の育成を目指し、更なる活性化に取り組みます。</p>					子育て支援課、子ども・くらし相談センター、学校教育課、学校給食課、社会教育課、国分中央高等学校					
施策の方針に対する達成状況(2018~2022)			後期計画における課題							
<p>■ドリカムプランを通じた指導法の改善や、タブレット端末活用法等の研修などにより、教職員の資質向上に取り組むことができた。</p> <p>■タブレット端末の全児童生徒1人1台配備により、教員や児童生徒の基礎的・基本的な知識の定着が進んだ。</p> <p>■コロナ禍でも「霧島しごと維新」等の特色ある教育活動を関係機関と連携・工夫して実施し、児童生徒のキャリア発達を育むことができた。</p> <p>■学校施設長寿命化計画を策定し、計画的な施設整備のための準備を整えた。</p> <p>■小中学校の大規模改修工事や空調設備設置、トイレ洋式化により、教育環境を整備した。</p> <p>■学校給食施設の更新計画、整備方針を策定し、厨房機器等の更新を行ったほか、学校給食の公費化に向けた組織体制を整備した。</p> <p>■国分中央高校では、精華アリーナ(2018年)、食品加工室(2020年)、温室等のデジタル化対応装置(2021年)の導入により、体育やHCCP、スマート農業、6次産業化への対応環境が整った。</p>			<p>■教員の指導力や児童生徒の学力を高め、思考力・判断力・表現力の更なる向上を目指し、各種学力調査の平均値を県や全国に近付ける必要がある。</p> <p>■問題行動や不登校・いじめ問題等は、専門家や関係機関とさらなる連携を図り、未然防止、早期発見・早期対応に努める必要がある。</p> <p>■学校施設長寿命化計画に基づき、小中学校の校舎・屋内運動場の大規模改修、トイレの洋式化、バリアフリー化を進め、教育環境の改善を図る必要がある。</p> <p>■学校給食施設や厨房機器等の計画的な整備・更新と、学校給食の公費化により、学校給食環境を改善する必要がある。</p> <p>■国分中央高校では校内Wi-Fi環境整備、学習用タブレット端末の整備等を進め、教育環境の改善を図る必要がある。</p>							
成果指標 (意図の達成度を表す指標)		◎目標達成(100%以上) △目標を未達成(100%未満)								
		単位	目標達成の方向性	区分	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	達成率 結果
A	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	63.0	64.0	64.0	65.0	65.0	83.0%
				実績値	61.0	59.2	78.8	53.7	54.2	△
B	小・中学生のあいさつや交通ルールを守るマナーが、2、3年前と比べて良くなっていると思う市民の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	50.3	52.8	55.3	57.8	60.3	82.0%
				実績値	-	-	-	-	49.6	△
C	学習定着度調査における平均正答率の県との比較	ポイント	更なる増加を目指します	目標値	-0.5	0.0	0.5	1.0	1.5	-
				実績値	-3.4	2.7	-2.7	-1.3	-0.5	△
D	規範意識の高い児童生徒の割合	%	更なる増加を目指します	目標値	63.0	64.0	64.0	65.0	65.0	133.0%
				実績値	47.7	53.2	87.1	88.9	86.6	◎
E	体力テスト(小・中学校)における平均値の県との比較	ポイント	更なる増加を目指します	目標値	0.7	1.2	1.2	1.7	1.7	-
				実績値	-0.4	0.2	-1.8	-1.5	-0.5	△
基本事業	5年間の取組内容			5年間の取組成果			後期計画における課題			
①夢実現のための学力の向上と個性を育む教育の推進	<p>■授業連動型家庭学習やドリカムプランの推進により教員の指導力の向上を図った。</p> <p>■市立小中学校の全児童生徒に1人1台ずつタブレット端末を配備し、個別・協働それぞれの学びの場において、端末の効果的な活用方法を研究した。</p> <p>■「霧島しごと維新」や「立志虹の環ゆめ俳句」事業等を通して、児童生徒の思考力・判断力・表現力の向上とキャリア発達を目指した。</p>			<p>■各校が毎年作成する学力向上プランにより、教員の指導力向上が図られた。</p> <p>■タブレット端末の配備と活用方法の研究により、教員や児童生徒の基礎的・基本的な知識の定着が進んだ。</p> <p>■コロナ禍でも実施できる内容を精選し、霧島しごと維新事業等に取り組み、児童生徒のキャリア発達を育むことができた。</p>			<p>■教員の指導力や児童生徒の学力を高め、思考力・判断力・表現力の更なる向上を目指し、各種学力調査の平均値を県や全国に近付ける。</p>			
②豊かな心の育成と個性を生かす支援体制の充実	<p>■問題行動、いじめ問題、不登校等の未然防止と早期発見・早期対応に向け、関係機関等と連携し、情報を共有するとともに、学校支援体制の構築に取り組んだ。</p>			<p>■子どもくらし相談センターや児童相談所、警察等と連携強化を図り、様々な問題に対応することができた。</p>			<p>■家庭環境の変化に伴い、問題行動の中身やそれに対する保護者の反応等も多様化しているため、専門家や関係機関とのさらなる連携が必要である。</p>			

基本事業	5年間の取組内容	5年間の取組成果	後期計画における課題
<p>③安全で安心な学校づくりと食育・体育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■学校施設等長寿命化計画を策定した。 ■小中学校等の空調設備設置やトイレ洋式化を行った。 ■学校、家庭、地域の連携を図ることで、スクールガードリーダーや地域の見守りボランティアとの交通安全・不審者対策、公民館等との合同防災訓練などに取り組んだ。 ■国や県の体力テスト等を積極的に活用し、児童生徒の体力の実態把握と分析に努めた。 ■学校給食施設の今後の更新計画、整備方針を策定し、備品更新計画に則した厨房機器等の更新を行ったほか、学校給食の公会計化に向けた組織体制を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■長寿命化計画により計画的な学校施設の整備が可能となった。 ■空調設備により熱中症対策が図られ、各小中学校のトイレ洋式化率60%以上を達成することで教育環境が向上した。 ■関係機関やボランティア等の協力を得られ、児童生徒の事故防止や安全安心な生活環境を維持できた。 ■県の事業に取り組んだり、研究校の指定を受けたりして、児童生徒の体力向上に取り組めた。 ■計画的な施設整備や、会計制度改革の準備により、学校給食環境の向上を進めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■校舎等の老朽化対策を計画的に実施する。 ■各小中学校の実情に応じて、さらなるトイレ洋式化を進める。 ■学校施設のバリアフリー対策を進める。 ■学校や地域の実態、自然環境等に応じた児童生徒の安心安全対策を進める。 ■児童生徒の体力実態や体力向上への取組状況等を把握し、一人一人が自らの課題解決に向けた体力向上計画を推進できるようにする。 ■計画的に学校給食施設を整備する。 ■学校給食の公会計化を着実に実行する。
<p>④地域や学校の特色を生かした教育活動と教育支援の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■小規模校入学特別認可制度や山村留学など、地域の特色ある教育活動を推進し、学校を中心に地域の活性化を図った。 ■毎年、全ての家庭に就学援助制度を周知し、経済的理由による就学困難な児童生徒を支援した。 ■将来、本市にUターン就職した場合に奨学金を免除する「霧島ふるさと愛」若者応援制度を、市広報誌やHPで広報した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■参加しやすい学校行事や、地域人材を活用する「ふるさと達人プラン」の実施により、特認校制度を利用する児童生徒が増加した(延べ327人)。 ■就学援助制度を活用する家庭が増えた(2018→2021 6.3ポイントの増)。 ■同制度で23人を認定し、将来本市に居住・勤務しうる人材を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■様々な理由で、年度途中に特認校へ転校を希望する児童生徒も見られるため、制度についてさらなる周知が必要である。 ■国の制度と重複しないような高等教育就学支援制度の検討が必要である。
<p>⑤専門高校としての魅力を高める高等学校教育の充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■国分中央高校において、多様な進路選択を促すキャリア教育の推進や指導体制の万全を図ることで、地元企業への就職や国立大学等への進学者を増やすよう努めた。 ■部活動の競技力向上とともに、文化系も含めた部活動の支援と環境整備に努めた。 ■各学科の特色を生かし、学科間の連携を図りながら、地域に信頼される魅力ある専門高校づくりに努めた。 ■教育環境の充実のため、体育館や農業関連教育施設の整備を進めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ■市内企業への就職者は5年連続で50%を上回り、国公立大学等への進学者も増加傾向となった。 ■複数の部活動が全国大会や九州大会に出場し、全国上位の成績を収めることができた。 ■複数の学科で定員を上回る出願があり、入学者の確保ができた。 ■精華アリーナ(2018)、食品加工室(2020)、温室等のデジタル化対応装置(2021)の導入により、体育やHCCP、スマート農業、6次産業化への対応環境が整った。 	<ul style="list-style-type: none"> ■進路指導の充実や、部活動の活性化、特色を生かした魅力ある専門高校づくりにより、生徒の募集定員確保を図る。 ■老朽化した校舎等の計画的な改修のほか、GIGAスクール構想による校内Wi-Fi環境や学習用端末等のIT機器の整備を推進する。